

北海道大学における DSpace活用事例



平成17年6月22日

機関リポジトリとメタデータ - 研究成果情報の組織化と発信 - に関するワークショップ

杉田茂樹 <sugita@lib.hokudai.ac.jp>

北海道大学附属図書館

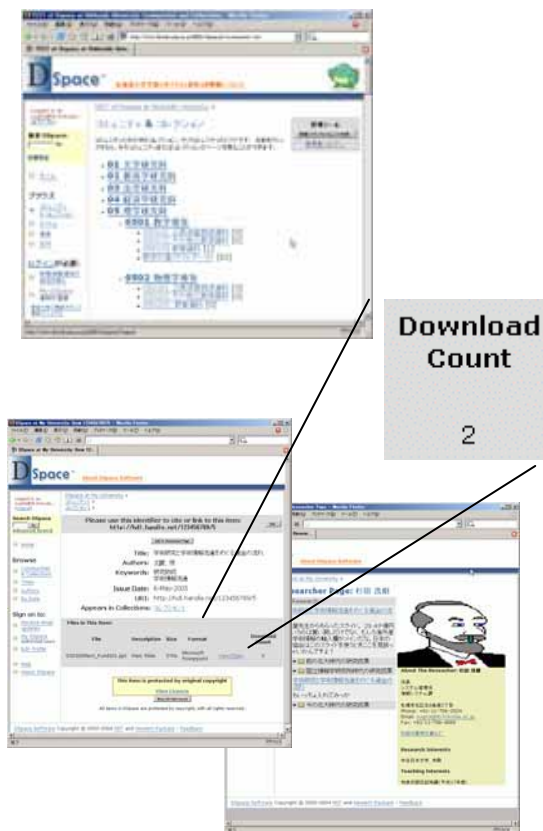


経緯(平成16年度の活動)

- ワーキング・グループ設置(事務部長裁定)
- 有効性検証、先行事例調査、コンテンツ調査
- 平成16年10月「北海道大学における学術機関リポジトリの在り方について(報告)」
- グリーン・ジャーナル掲載論文調査(WoS2年分)
- 「学術情報の発信に関するアンケート」調査
 - 回答22%,うちOA理念賛同91%,登録意思あり70%
 - 登録したくない人
 - 著作権上の問題が心配
 - 登録が面倒
 - 情報が不足していてよく分からない

北大学術リポジトリ(仮称)

- DSpace1.2.1
 - Community:学部
 - Sub-Community:専攻
 - Collection:資料種別
- DSpace1.3
 - Researcher Toolの実装
 - ダウンロードカウンタの実装
- サービス・プロバイダの分離を検討
 - Sub-Community機能により, CommunityがSetとして扱えなくなったのでちょっと難しい





○ 学術リポジトリ 検討ワーキング・グループ

主査:情報システム課長

本館 { 情報管理課 1名
情報サービス課 1名
情報システム課 全員

北分館 1名

経済学部 1名(係長)

理学部 1名

工学部 1名(係長)

歯学部 1名

農学部 1名

機関リポジトリとメタデータ - 研究成果情報の組織化と 発信 - に関するワークショップ



平成17年度の活動2 実験運用(平成17年3月～5月)

- 学内限定公開
- 一斉案内文書
 - 図書館報速報版, アンケート賛同回答(159名)
- 加えて, 個別登録要請
 - グリーン論文あり かつ アンケート賛同回答(60名)
- 利用者登録: 28名
- コンテンツ登録: 43件
 - Green論文27件, 非査読資料4件, 教材12件
 - ただし, うち14件は保留
 - 1件削除(著者版なし)

平成17年度の活動3

ポリシー不明出版社交渉

- 国内学会 (学会発表予稿)
 - 許諾
- 海外学会 (学会発表予稿)
 - ロード日予告に対し, 黙認 (黙殺?)
- 海外出版社1 (雑誌掲載論文)
 - Credit表示を条件として許諾
 - PDFを購入すれば出版社版の再配布が可能
- 海外出版社2 (雑誌掲載論文の査読用PDF)
 - 不可
- 何をしようとしているのか, べたっと説明する必要あり
 - What is concerned here is such PDF file as the author newly made by himself, with his Acrobat Writer, from his MS Word manuscript. Then it'll be without your journal logo and layout.

平成17年度の活動4

出版社版アップロードへの対応

- 電子ジャーナルから入手したPDF
- 著者版の有無を照会 8名
 - 「持っている」 差し替え完了 3名
 - 「持っている」 送付待ち 1名
 - 「持っていない」 1名
 - 返事なし 3名
- 草稿テキスト + 図表を元に, PDFに再構成してくれた例あり



平成17年度の活動5

個別訪問ヒアリング(1)

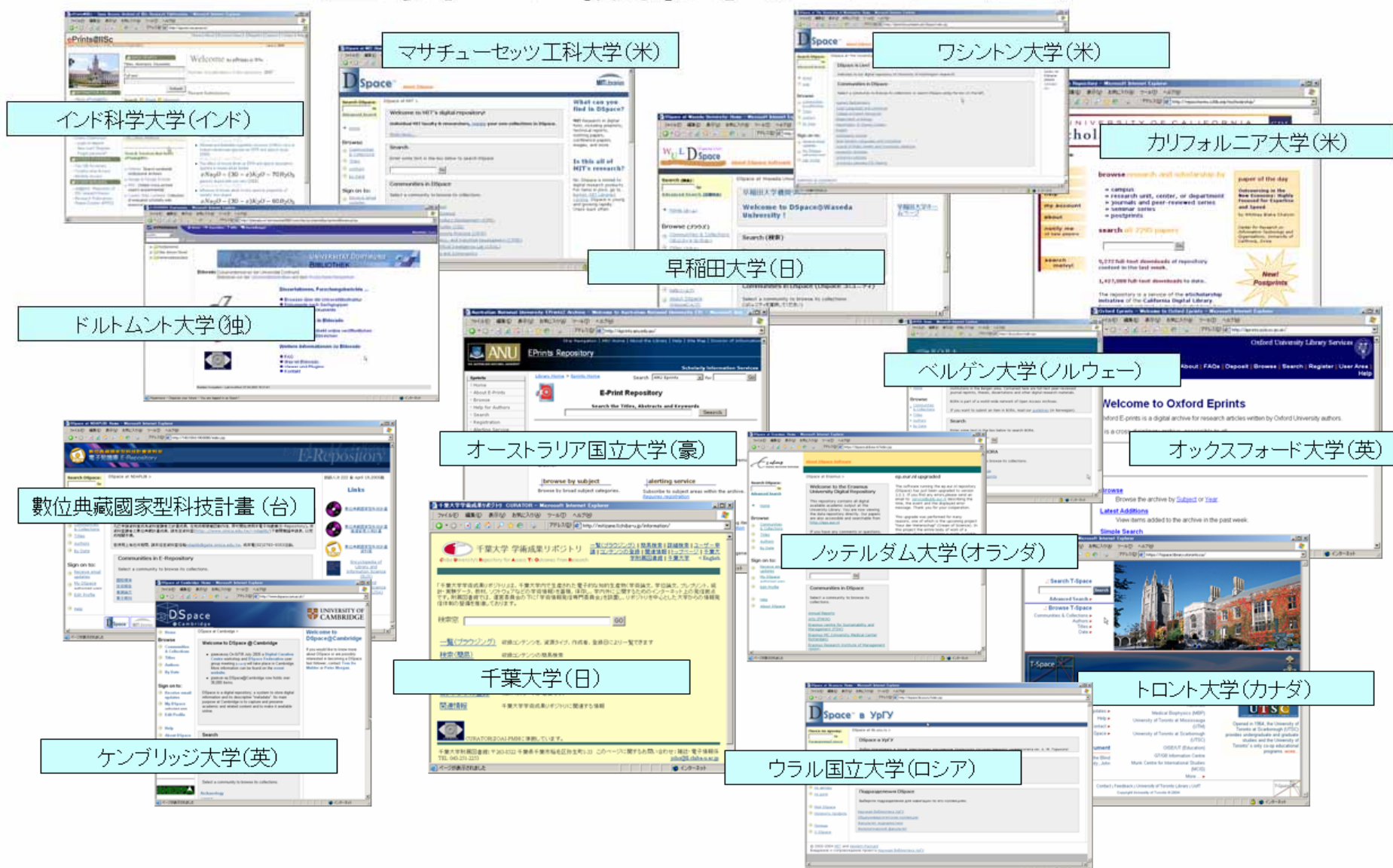
- 4月25日 理系 教授
 - 登録作業よりも散逸した原稿の搜索・同定がたいへん
- 4月28日 理系 助手
 - 原稿は管理している
 - きれいに見せたい(PDF再構成)
- 5月9日 理系 教授
 - 研究業績DB, ReaD等との重複作業でなくてほしい
 - 学外からどれだけ見られたか知りたい
- 5月16日 理系 教授
 - 原稿は管理している
 - 権利処理不安
- 6月2日 理系 助教授
 - いいことだと思う。が、とにかく忙しい。
 - 分野の最前衛のピンポイントな研究は研究者コミュニティも小さく、雑誌購読 + ILLで用は足りている。



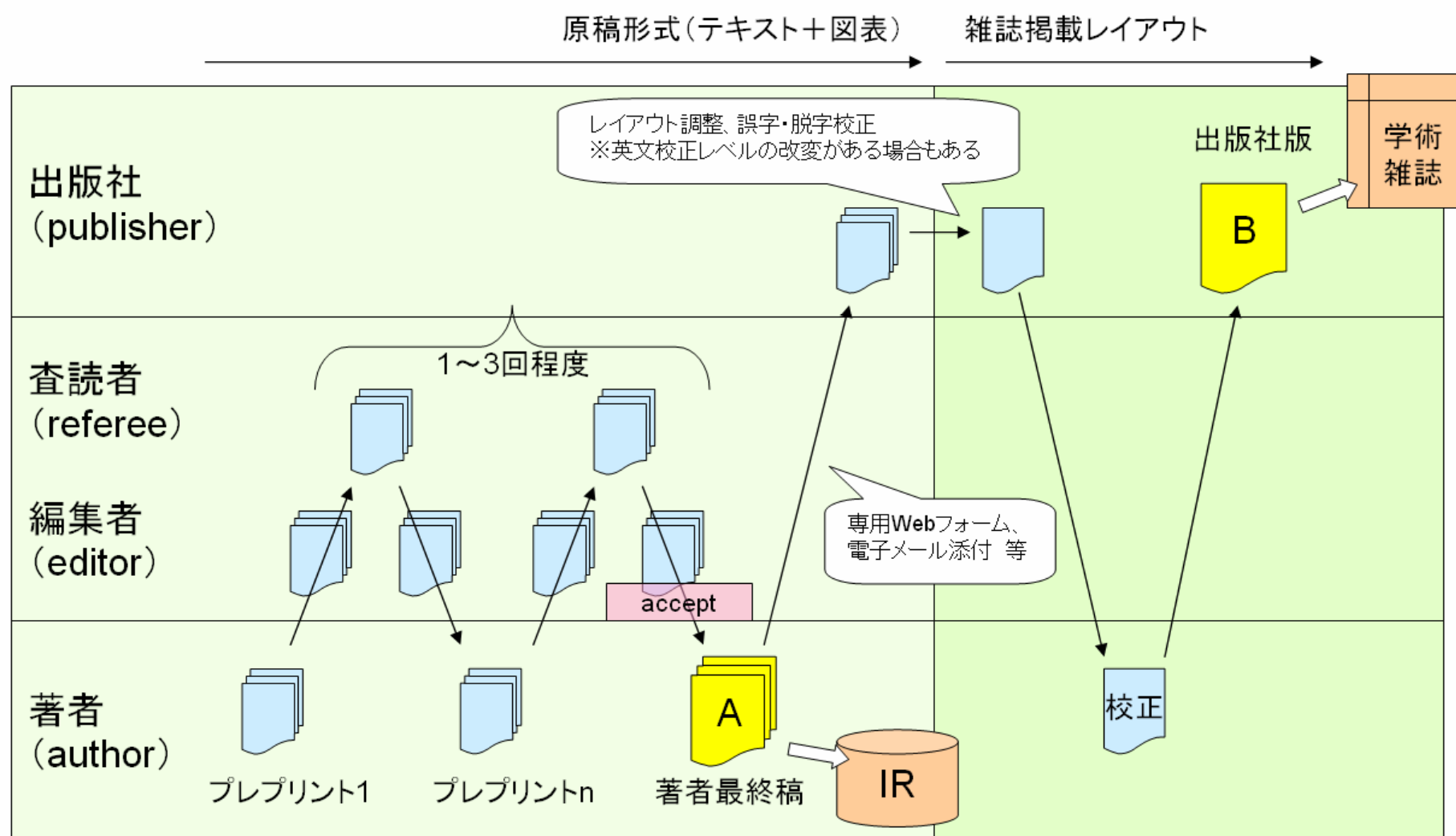
平成17年度の活動5(承前) 個別訪問ヒアリング(2)

- 6月10日 文系 教員昼食会(教授等9名)
 - 売り出し中の層(助手, COE研究員, ...)への支援であってほしい
- 6月17日 文系 教授(図書館委員会委員)
 - 名前が分かりにくいことが最大の課題。知られている用語を使うこと。ライブラリー, コレクション, EJ, ...
 - 教授会を説明の場とするのは好まれない(教授会は外部者の参加を好まない)
 - 登録作業に許せるのは1分。電子メール添付で送るだけなら随分違う。最初の第1歩を踏み出すところが最も敷居が高い
 - 教育資料の充実に関していちばん効き目があるのは, 学生から搭載要求を出させること
 - 研究論文については評価に絡めてトップダウン。アメは思いつかない。
 - 市民講座, 公開講座関連資料を収集するといういきかたもトップダウンになじむだろう

世界の機関リポジトリ



編集・査読プロセスの例



平成17年度の活動6

図書系職員説明会

- 図書系職員対象，2回実施
 - 第1回 本館 5月23日 48名
 - 第2回 北分館 5月26日 29名
- システムデモ，概要紹介，現況紹介
- アンケート実施(77名中，53名回答)



▼機関リポジトリについて	説明会前	説明会后
名前も聞いたことがない	2	-
名前を聞いたことがある程度	19	1
およそ知っている / わかった	29	38
よく知っている / わかった	3	14



平成17年度の活動7

館内・学内調整

- 5月26日 事務局研究協力課
 - 「研究業績データベース」を所掌
 - 研究成果公開は大学の責務
 - 引き続き、情報交換・意見交換を望む
- 6月13日 事務局企画調整課経営分析室
 - 研究業績データベースの再編(H18中)を計画中
 - 大学評価・学位授与機構「大学情報データベース」対応
 - 今後、システム設計・制度設計の議論への図書館の参画を検討
- 6月14日 図書館委員会
 - 実験運用の報告
 - 平成17年度事業計画(「構築・運用の検討」)



最近の話題から

- セルフ・アーカイビング擁護か
 - 任意参加
- 機関成果コレクションの達成か
 - 制度化～大学業績データベースとの融合
 - 極論：電子ジャーナルから系統的・定期的に北大論文を入手して、コピペ編集で「著者版」を創りだす
- いずれにせよ広報・擁護活動は必要



今後の計画(WG腹案)

- 実験の継続(7月再開を目標に)
- 学外実験公開(Web, OAI-PMH)の開始
- 遡及入力からカレント入力へ
- 評価手法の確立(専門家との協力が必要?)
- 教官レベルの検討の場